

2014年3月7日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 鋤柄 直純

ウズベキスタン共和国 トゥラクルガン火力発電所建設事業  
(協力準備調査(有償))  
スコーピング案に対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2014年2月24日(金) 14:00～16:40
- ・ 場所：JICA 本部 (会議室：1階 111会議室)
- ・ ワーキンググループ委員：清水谷委員、鋤柄委員、長谷川委員、早瀬委員、柳委員
- ・ 議題：ウズベキスタン共和国 トゥラクルガン火力発電所建設事業準備調査に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・ 配付資料：ウズベキスタン共和国 トゥラクルガン火力発電所建設事業 SC 案事前配布資料
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第45回委員会)

- ・ 日時：2014年3月7日(金) 14:31～17:20
- ・ 場所：JICA 本部 (会議室：1階 113会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項**

1. プロジェクト評価検討において、評価手法、評価基準、総合評価プロセス、経済性と環境社会配慮の調和への考え方等を明確にすること。
2. 「ウ」国の将来電力供給計画を、電源構成の別も含めて、DFR に電力セクターの章を設けて詳細に記載すること。
3. 発電施設（ガス・コンバインド・サイクル発電ユニット（450MW×2））の諸元や施設構造にかかる基本情報について DFR に詳細に記載すること。

### **代替案の検討**

4. 4 か所のプロジェクト候補地点、及び本体事業に含まれる送電線やアクセス道路の代替ルート案の比較における環境社会面からの検討結果（候補案を絞り込んだ経緯を含む）を DFR に明記すること。
5. ゼロオプションと本計画との間での、環境への負荷量（二酸化炭素を含む）の変化について、可能な限り定量的に DFR に記載すること。
6. 燃料の選定に関して、国全体の将来電力供給計画の内容及び当該検討地域の特性を踏まえて、天然ガスを選定した理由を DFR に記載すること。

### **スコージング・マトリックス**

7. 「河川生態系」について、水量的観点のみでなく水質的観点からも生態系への影響を検討すること。
8. 送電線に伴う地形・地質の影響について、本調査で確認し、DFR に記載すること。
9. 事故時の対応について、特に触れていないが、「ウ」国のアセスメントでは評価項目としているので対応を記載すること。

### **環境配慮**

10. 最大着地濃度基準値（MPC）を用いた規制の詳細について、DFR で記載すること。
11. 動物の生息確認種について再度リストを確認し、ウズベキスタンのレッドデータブックや IUCN のレッドリストを含めて、参照すること。
12. 事業の稼働に伴う住居地域の騒音の予測について、本調査を踏まえ記載すること。
13. 施設稼働に伴う住居地域（果樹園を含む）への大気汚染の影響について、拡散シミュレーション等で確認し、必要に応じてモニタリング計画に反映すること。

### **社会配慮**

14. 送電線の敷設に伴う線下補償により、33 世帯に対する土地や果樹園への補償の内容を、DFR で記載すること。
15. アクセス道路に伴う通過道路の用地買収に伴う補償の内容について、「ウ」国及び JICA による補償の具体について DFR で記載すること。
16. 電磁場による健康影響が想定されるとあるが、その一方で送電線ルートは、住居地や建築物を避けるようにしているとあることから、電磁場による影響の有無を確認すること。

### **ステークホルダー協議・情報公開**

17. ステークホルダー協議の内容に関しては、発言者の立場が分かるように整理して記載すること。
18. 最近傍の住民からの意見を明らかにすること。

以 上